令和３年度　徳島県立脇町高等学校　学校評価　総括評価表

重点目標		課題		評価指標と活動計画			実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見	次年度への課題
1	学校と家庭が連携を深め，主体的に学習する態度と確かな学力をもった生徒を育成する。	(1)	指導方法の工夫・改善	評価指標	1	「授業力向上に，授業公開・参観授業を役立てることができた」教職員の肯定的評価90%以上	教員の肯定的評価は92.7%(-4.9)であり，今年度も高いレベルで目標を達成できた。	A	B （所見） 評価指標について，10項目中達成できたものが6項目，部分的に達成できたものが2項目，達成できなかったものが2項目であった。 協働的問題解決学習をはじめ，ICT機器を活用した学習環境の構築など，教職員の授業改善に取り組む意欲は非常に高い。 その一方で，テストに向けての生徒の主体的で計画的な取組は不十分であり，その意識付けと家庭学習習慣の定着が課題である。 リモート形式でSW-ingの各種活動を継続するとともに，タブレットを活用した授業や教材研究に取り組み，コロナ禍を乗り越えて多様な学びの場を提供してきた結果，生徒の評価は非常に高い。 PTA総会は今年度も書面会議となったものの，今年度は全学年で進路保護者会を多数の方々の参加を得て開催できた。 また，部活動の動画や行事予定表の掲載等ＨＰを工夫し，保護者の評価が改善した。	生徒は週末課題など与えられた課題には取り組んでいるようだが，定期考査に対する意識に欠けているということか。 学習に主体的・計画的に取り組む意識を高めていくための対策としては，どのようなことがあるのか。 家庭での学習時間の短さへの対策も必要なのではないか。 恐らく塾に通っている生徒が多く，仕事の都合で子どもと十分に関わることができる保護者は少ないというのが現状だろうが，授業だけでは対処できない部分があるので，学力を定着させるための家庭での主体的な学びに向けて，家庭との一層の連携が大事だと思う。 ホームページの更新回数は評価指標を達成できたということだが，月毎の閲覧者数はどうなのか。どんどん閲覧してもらえるようなホームページになるよう，引き続き内容面での一層の充実を図っていただきたい。	○ＩＣＴ機器を用いた個別最適な学びを引き続き実践していく。特に分散登校等のオンライン学習に対応した教育の質を高める。
					2	「指導方法や内容の精選，教材の共有などについて，教科内での連携を密に行っている」教職員の肯定的評価90%以上	教員の肯定的評価は95.1%(-2.5)であり，今年度も高いレベルで目標を達成できた。				
				活動計画	1	授業研究週間を年2回（各2週間）設けるとともに，協働的問題解決型の授業公開を全教職員が行う。	授業研究週間では110講座が公開されており，すべての教員が授業公開を行ったと考えられる。また，教員アンケートにおいて100%の教員が協働的問題解決型の授業の効果を実感している。				
					2	各教科で教科会や授業担当者打ち合わせを適宜開催し，学習指導方法の工夫や改善について検討する。	教育課程指定校事業（地理歴史科）での取り組みを筆頭に，各教科で授業進度の確認や考査問題の吟味を通して，指導方法の工夫や改善を行った。				
		(2)	計画性や目的意識を持った学習習慣や態度の育成	評価指標	1	「週末課題や確認テストに意欲的に取り組んだ」生徒の肯定的評価80%以上 「定期考査に向けて計画的に学習に取り組んだ」生徒の肯定的評価80%以上	週末課題に関する肯定的評価79.8%，定期考査に関する評価72.8%であり，定期考査に関しての取り組みが各学年において低かった。	C			○毎日の学習習慣が確立できていない生徒が増加している。日々の授業と課題やテストを関連付けて，入学時から根気強く指導を継続させる必要がある。 進路決定時期の3年生になってからは，意識が向上するものの入学当初の意識が低い。 実力テストへのアプローチをもう少し強めた方がよいかもしれない。
					2	「実力テスト・校外模試に向けて計画的に学習している」生徒の肯定的評価75%以上	生徒の肯定的評価69.9%　１学年は校外模試がほとんどないため，評価が低かったが３学年では83.7%とよく頑張っていた。				
				活動計画	1	シラバスや手帳，面談，集会などを効果的に活用し，計画的な学習スタイルを確立させる。	2年生では週末課題への取り組みが高かった（81.5%）ものの，全体としては学習に対する意識は低い。				
					2	進学室前の掲示板に試験予定を提示するとともに，具体的な計画を立てるよう指導する。	１・２年生の肯定的評価が低く，テストに対する意識が低いことがわかる。				
		(3)	家庭学習の充実	評価指標	1	全生徒の年間平均家庭学習時間2.8時間以上。1年生2.7時間以上，2年生2.8時間以上，3年生3.5時間以上。	家庭学習時間平均1学年2.27，2学年2.43，3学年2.99，平均2.55時間であった。	C			○自主性を育てることも必要であるが，学習時間を確保できていないようでは，自ら課題は設けられない。日々の課題を増やして，何が必要かを確認することが必要かもしれない。
					2	家庭学習時間調査において，学習時間が1時間未満の生徒の割合を，4%以下にする。	1学年では６%，2学年では3.4%，3学年では3.8%だった。				
				活動計画	1	家庭学習時間調査を通して，家庭における学習状況を把握し，指導に活用することで学習習慣を確立させる。	年度当初から学習時間が少なく，家庭での学習習慣がついていない。				
					2	学年集会等を利用して学習の意義や具体的な学習方法について指導し，家庭での学習習慣の必要性を理解させる。	各学年での指導を行ったものの，まだまだ工夫が必要である。				
		(4)	興味・関心を高める教育	評価指標	1	「生徒の興味関心を高める教材の研究や授業の工夫・改善を積極的に行った」教職員の肯定的評価90%以上　「興味・関心を持って授業に意欲的に取り組んだ」生徒の肯定的評価80%以上	教員の肯定的評価は100%(±0)であり，今年度も高いレベルで目標を達成できた。 また，生徒の肯定的評価は82.3%(+2.4)であり，昨年度より向上がみられた。	A			○地方において科学技術人材を育成するため，ＩＣＴを活用した個別最適な多様な学びを実践していく必要がある。新しい評価の観点に適応したカリキュラムを実践・開発する。
					2	「SSH事業の各種活動に参加してよかった」 生徒の肯定的評価80%以上	肯定的評価は87.8%で目標を上回った。				
				活動計画	1	文献や書物に接する機会を増やし，話題に富んだ授業を行うなど，生徒の興味・関心を高める工夫がなされた，わかりやすい授業を行う。	SW-ingや課題研究の活動を通して，生徒が文献や書物，公文書等に接する機会を積極的に設定した。それぞれの教員が工夫を重ねた授業実践を行った。				
					2	魅力あるSSH事業を展開し，未知の事柄への興味（知的好奇心）を向上させる。	肯定的評価は87.1%となり，様々なSSH事業が有機的につながったと考えられる。				
		(5)	家庭との連携	評価指標	1	PTA総会の保護者参加者数の割合50%以上，学年進路保護者会の参加者数の割合，各学年60%以上	ＰＴＡ総会は今年も中止とし，理事会での議事承認をもって総会での承認とした。学年進路保護者会は，全学年とも参加者が多く，目標を達成することができた。(進路保護者会：１学年…88.5%，２学年…68.4%，３学年…88.4%)	A			○次年度こそ，通常の形でＰＴＡ総会を実施したいと考えているが，感染状況を注視しながら，安全で安心して参加してもらえる方法を検討したい。 ○保護者の学校や進路についての関心は高いため，有効な情報発信ができるよう，各学年とも，進路指導課と連携しながら進路保護者会を進めていきたい。 ○より見やすく情報が伝わりやすいホームページになるように，改善していく。
					2	「ホームページは，学校の活動状況などを理解するのに役立っている」保護者の肯定的評価70%以上	肯定的評価は76.9%(+10.9)と昨年度より大きく改善し，目標を達成することができた。				
				活動計画	1	保護者への案内を早めに行い，PTA総会や学年進路保護者会への積極的な参加を促す。また，進路課と連携しながら，各学年の保護者に応じた情報提供ができるよう保護者会の内容等を充実させる。	学校の取組や進路への関心は高く，進路保護者会については各学年とも参加が多かった。感染予防対策を徹底し，限られた時間の中で有意義な会にするため，伝達内容の精選や，配布資料の工夫などが各学年で効果的に行われた。				
					2	ホームページの更新を年間200回以上実施する。	ホームページの更新を，年200回以上実施できた。				

【備考】「評価」及び「総合評価」の評定の基準　A:十分達成できた　B:概ね達成できた　C:達成できなかった

2	高い志を持ち，目標の実現に向けて努力し，将来，社会のリーダーとして活躍しうる生徒を育成する。	(1)	望ましい職業観・早期の進路意識の育成	評価指標	1	「小論文・講演会・ＳＳＨの諸活動などを脇高手帳に記録し，進路意識を高めるよう努力した」生徒の肯定的評価70%以上 「授業やホームルーム活動を通して，生徒の進路意識の向上に努めた」教員の肯定的評価90%以上	小論文・講演会・ＳＳＨ諸活動に関する肯定的評価57.2% 授業・ＨＲ活動を通して進路意識の向上を図る　95.0%	B	A （所見） 評価指標について，12項目中達成できたものが10項目，部分的に達成できたものが2項目，達成できなかったものはなかった。 SSHへの取組が志望分野探しに役立ってはいるものの，様々な活動を通して得た気づきなど自らの成長を記録した「脇高手帳」を，自らの進路意識を高めるポートフォリオとして活用しきれていない恐れがある。 生徒会や脇高祭実行委員会が中心となって様々な創意工夫でコロナ禍を乗り越え，可能な限り様々な学校行事を実施することができた。 朝のあいさつ運動は生徒主体にして，交通指導と併せて実施できた。 全校生徒を巻き込むような活動を企画し，探究活動等では地方自治体等との連携を深めて地域課題に取り組むことで，コロナ禍の下でも可能な範囲で社会貢献に取り組むことができた。 GTECを基本にほとんどの生徒が外部試験を受検しており，リスニングテストやスピーキングテストの実施と合わせて，英語４技能をバランスよく育成することができた。	ＳＳＨ事業で，生徒は様々な活動に取り組んでいるということだが，これらの実績は大学進学等の進路実現につながっているのか。 学習指導要領改訂の趣旨にも合致し，大学等からも高く評価されているということなので，引き続き取組を進めていっていただきたい。 コロナ禍の下，修学旅行の次年度への延期など様々な制約を受けるのは致し方ないが，そのような中でも文武両道をめざして，部活動も勉強も頑張り，大学進学等の進路実現につなげているのはすばらしい。 生徒がやる気を出すタイミングはそれぞれだと思うが，それを少しでも早く引き出すためにも，引き続き学校と家庭，地域との連携・協力が大事だと思う。 対面以外の授業など，学校のスタイルも変化しており，コロナ禍の下でも様々な工夫をすることで，各分野で多様な取組を実施していただけていると思う。	○コロナ禍の中，生徒の諸活動が制限され，校外での活動ができなかった。しかし，感染防止は徹底でき，学校生活が通常通り送れたことは数字以上の意味があったと思う。 校内での進路に関するホームルームを充実させることで，意識向上に努めたことは教員の評価につながっている。
					2	「SSH活動は大学進学後の志望分野探しに役立った」生徒の肯定的評価70%以上	肯定的評価は73.6%で目標を上回った。					
				活動計画	1	小論文・探究活動・講演会・W-ing/SW-ingプランの活動に積極的かつ意欲的に取り組ませるとともに，進路を考える機会となるよう指導する。授業やホームルーム活動の中で，生徒の進路意識を向上させるよう働きかける。	小論文・講演会・諸活動に関してコロナ禍の影響もあり，リモートが多く生徒の意識向上にはつながらなかった。					
					2	SSH活動への参加を将来の志望分野探しに役立たせる。	コースや生徒の特性に合わせた課題研究を実践したことや多様な形態での研究者との交流を実践した。					
		(2)	個々の希望や適性に応じた多様な進路指導	評価指標	1	「先生は面談等を通じて，進路についてよく指導してくれる」生徒の肯定的評価85%以上「教員は個人面談などを通して，個々の生徒に応じた丁寧な進路指導をしている」保護者の肯定的評価85%以上	生徒の肯定的評価　91.2% 保護者の肯定的評価　88.6%	B				○担任は，日常から個人面談を行っている。進路に不安を持つ生徒が多いにもかかわらず生徒・保護者ともに評価が高いのは面談週間にとらわれない生徒への指導のたまものと思われる。このまま継続したい。 ○『道標』をはじめ，新しい入試制度に関する資料提供を効果的に継続したい。
					2	「『道標』をはじめとする各種の進路情報は充実している」生徒・保護者の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価　74.2% 保護者の肯定的評価　88.7%					
				活動計画	1	定期的な個別面談や三者面談を実施するなど，きめ細やかな進路指導を行う。	担任は個人面談を定期的に行うことによって，生徒・保護者ともに評価が高かった。					
					2	高大接続改革の情報を含め，必要な進路情報を生徒・保護者に分かりやすく提供するとともに，『道標』の内容を充実させる。	進路保護者会を始め，進路に関する資料提供に努めた結果，好評価を得た。					
		(3)	生徒保護者が希望する進路目標の達成	評価指標	1	生徒・保護者から希望の高い国公立大学への合格者数が，在籍生徒数の50%以上	国公立大学合格者数，3月11日現在95名が合格している。前期試験終了段階で在籍180名中52.8%を達成した。	A				○今年度の共通テストは昨年度に比較すると，かなり難易度が上がり平均点が大きく下降した。受験した生徒は目標点に届かなかった生徒が多かったが，諦めず努力を続けた事が結果につながった。粘り強い指導は，今後の参考となった。 ○顧問はよく配慮している。今後さらに生徒，保護者に向けて両立の重要性や価値を学校全体で発信していくことが必要である。また，両立方法についても具体的方策を生徒や保護者に提示していかなければならない。
					2	「部活動顧問は，生徒の学習状況を考慮してバランスのとれた活動時間を設定している」生徒・保護者の肯定的評価80%以上	肯定的評価は生徒84.8%，保護者80.4%であった。					
				活動計画	1	日常の取り組みを学習成績に反映させ，丁寧な進路指導を行うことで個々の進路実現に結びつける。	個別指導の強化により，合格率が上がった。					
					2	学習と課外活動とのバランスを取りながら，生徒の自己実現に向けた指導を行う。	顧問はよく配慮している。今後さらに生徒保護者に向けて両立の重要性や価値を学校全体で発信していくことが必要である。					
		(4)	将来，社会において活躍しうる脇高生の育成	評価指標	1	「学校祭や球技大会などの学校行事には，積極的・主体的に取り組めている」生徒の肯定的評価80%以上	肯定的評価は90.4%であった。	A				○昨年度の反省を生かし，生徒会や脇高祭実行委員等を中心に工夫する活動ができた。次年度もこの経験をもとにさらにブラッシュアップさせたい。 ○服装やあいさつに関しての指導は，全職員が一丸となって実施できている。あいさつ運動は校地内での取り組みを生徒会に任せることで，職員は校外での指導に専念できた。本年度は２名体制で交通指導もかねて実施したので，継続して取り組みたい。
					2	「服装・言葉遣い・時間厳守を心がけた生活をしている」 生徒の肯定的評価90%以上	生徒の肯定的評価は91.8%で目標値を上回った。					
				活動計画	1	学校祭や球技大会などの学校行事を，生徒主体で積極的に運営し，協働意識を高め，社会性を育てる。	昨年度の反省をもとにより充実した活動ができたと考えられる。					
					2	身だしなみについて各クラス・各学年・学校全体で継続的な指導を行う。また，朝のあいさつ運動を毎月実施する。	毎週の初めに職員朝礼で全職員に呼びかけ，朝のHRで生徒への周知徹底を図った。 生徒会協力の下，あいさつ運動が実行でき，生徒の意識が向上した。					
		(5)	将来，社会に貢献しようとする人材の育成	評価指標	1	「ISO清掃活動等，各種ボランティア活動に積極的に参加している」 生徒の肯定的評価50%以上	生徒の肯定的評価は68.6%であった。	A				○高校生としての成長や進路実現に向けて，ボランティア活動等の社会貢献の意識が高まっている。特にJRC部は昨年度に引き続き，コンタクトレンズや古本回収等全校生徒を巻き込むような活動を多数実施した。今後も全校生徒が参加の意識を持てるような広報や啓発を行っていかなければならない。
					2	「社会の課題解決に関する探究活動に積極的に取り組み，社会への関心が高まった」生徒の肯定的評価75%以上	肯定的評価は79.2%で目標を上回った。					
				活動計画	1	ボランティア活動への積極的な参加を呼びかけ，社会貢献への意識を高める。	各クラスでの掲示や集会での生徒会からの報告等啓発に努めた。JRC部も昨年に引き続き，積極的に全校生徒が参加できる取り組みを考え実施した。					
					2	探究活動や成果の報告会などを通して生徒間の経験や知見を共有させ，社会への関心を高める。	地方自治体等多様な主体と連携した地域課題解決型の課題研究に取り組んだ。					
		(6)	グローバル化に対応できる人材の育成	評価指標	1	「GTECや英検の受検，ALTとの授業に主体的に取り組んだ」 生徒の肯定的評価60%以上	生徒の肯定的評価63.9%(+3.9)と目標値を上回り，英語外部検定試験への積極的な姿勢が見られた。	A				○CAN-DOリストを活用し，３年間を通して身につけさせたい力を明確化することで計画的に指導していく。 ○「やりとり」を加えた５技能をバランスよく伸ばせるよう，アウトプットを意識した言語活動を活発に授業に取り入れていく。 ○10月よりALTが不在のなか，ネイティブの英語や文化に触れる機会を増やしていけるよう工夫する。
					2	「国際社会の様々な問題に興味・関心を持ち，書籍・インターネット等を利用して調べている」生徒の肯定的評価が50%以上	生徒の肯定的評価59.0%(+9.0%)と目標値を上回り，国際社会への興味・関心を示し，書籍やインターネット等を利用している。					
				活動計画	1	生徒の英語学習への意欲を高め，GTECや英検の受検をすすめる。国際理解教育の充実をはかり，コミュニケーション能力向上のためにリスニングやスピーキングテストを取り入れる。	GTEC受検率は１年生98.8%，２年生99.4%，英検受検率は学校全体(準２級・２級・準１級の年間合算)で52.7%だった。英語外部検定試験を利用する入試も増加しており，今後もより積極的な受検を促す。リスニングテストは全てのテストにおいて実施し，スピーキングテストも１・２年生とも年１回以上実施できた。					
					2	書籍・インターネット等を活用し，異文化に関する知識と正しい認識を持たせるとともに，グローバル化に柔軟に対応できる能力を育成する。	プレゼンテーションやディスカッションの事前学習として，インターネットや書籍を活用できた。国際教育振興弁論大会に参加し，SDGsの一つである貧困について考え，発表した生徒もいた。					

【備考】「評価」及び「総合評価」の評定の基準　A:十分達成できた　B:概ね達成できた　C:達成できなかった

3	自己有用感や自己肯定感を育み，仲間と協働できる豊かな心を持ち，公共心と社会性をそなえた，たくましい生徒を育成する。	(1)	環境美化・防災に対する意識の向上	評価指標	1	「清掃活動に積極的に取り組んでいる」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価88.7%(+1.8)と目標数値を上回った。	A	A	（所見） 評価指標について，14項目中達成できたものが12項目，部分的に達成できたものが2項目，達成できなかったものはなかった。 実施形態を工夫して避難訓練を欠かさず実施し，防災意識の向上に努めてきた結果，防災に関する意識について，今年度は目標値を上回ることができた。 交通安全・交通マナーに対する生徒の意識は非常に高く，交通事故の発生件数も減少している。 携帯電話やスマートフォンについては，利用方法についての意識は高いが，利用時間に対する生徒の自覚を促すとともに，保護者の理解と協力を求めていく必要がある。 悩みや不安を抱えた生徒や保護者からの相談には誠実に対応し，スクールカウンセラーによるカウンセリングを定期的に実施し，必要に応じて関係機関とも連携して対応しており，生徒・保護者の満足度も高い。 人権学習ホームルーム活動に対する評価は，生徒・教職員ともに非常に高く，生徒主体で身近な人権問題をテーマに取り上げることで，家庭での話し合いについても目標値を上回ることができた。 コロナ禍により，修学旅行は来年度に延期し，脇高祭は完全非公開に，ミライ文化祭も計画の見直しが必要となったが，様々な工夫をすることにより実施に努め，芸術や文化に触れる機会を提供できた。	教職員に加え部活動の生徒にも救命救急法の講習を実施したということだが，AEDを操作できる生徒はどの程度いるのか。 先日も東北で震度６強の地震があったが，防災避難訓練は効果的に実施できているのか。 コロナ禍で密を避けるなど様々な制約を受けることもあるだろうが，着実に取組を進めていただきたい。 新聞感想文に関する新聞記事で，受賞者として何人もの脇高生の名前が掲載されているのを見て，脇高生は新聞を読む習慣が身についていてすばらしいと思った。	○防災については，文化祭等で防災展を通して意識付けを高く工夫したつもりではあるが，まだ浸透するには至っていない。今後起こるであろう大地震についても考えさせ，文化祭だけでなく，防災避難訓練などあらゆる機会を捉えて意識付けさせることが必要である。 ○防災士（スペシャリストティーチャー）が高校生防災士や防災クラブを活用し防災訓練をスムーズに行えるように避難誘導する必要がある。
					2	「防災訓練に，関心を持って積極的に参加している」生徒の肯定的評価75%以上	防災訓練について関心を持っている生徒は80.7%（+7.3）と目標数値を上回ることができた。					
				活動計画	1	快適な環境で学習できるよう，清掃活動やゴミの分別に積極的に取り組ませる。	ゴミの分別は十分できている。教室に電子黒板等精密機器が設置されているので環境整備に努めている。校舎内に付着しているクモの巣等も除去している。					
					2	高校生防災士を活用して，参加体験型訓練など体験を重視した活動を取り入れ，防災に対する関心を高め，家庭でも学校でも積極的に行動できるよう指導する。	今年度はコロナ禍で防災訓練を参加体験型として実施できなかった。しかし，避難訓練を通して防災に対する意識の向上に努めた。また，高校生防災士の活動として避難経路の扉にガラス飛散防止フィルムの貼付作業を行った。					
		(2)	集団や社会の一員として協力	評価指標	1	「ホームルーム活動や部活動を通して，自分自身が成長できていると感じる」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は86.8%であった。	A				○協働的な雰囲気の中でホームルーム活動や部活動が行われている。集団への帰属意識を高め,さらにその中で自分の果たせる役割を常に考えさせ，生徒自身を成長させる活動を進めていきたい。
					2	「授業や小論文・講演会などを通じ，社会的問題を主体的に考える意識が高まった」生徒の肯定的評価75%以上	生徒の肯定的評価は81.1%(+2.6)となり昨年度より向上し，目標を達成できた。					
				活動計画	1	ホームルーム活動や部活動を通して，集団の中での役割や立場を理解し，仲間と協力して目標に向かって努力できる生徒を育成する。	コロナ禍で制限のある中でも，工夫して取り組ませることが生徒を成長させるきっかけ作りになったと考えられる。					
					2	主権者教育年間計画表に従い，主権者意識を高めるための授業，ホームルーム活動，総合的な学習の時間，学校行事を実施する。	コロナ禍で模擬投票は実施できなかったが，1年生の現代社会の授業や3年生の年金講座を通して，社会の一員としての自覚や主権者意識を高める取り組みを行った。					
		(3)	基本的生活習慣の育成，安全教育の推進	評価指標	1	「交通安全・交通マナーについて，日ごろから十分意識し，守っている」生徒の肯定的評価90%以上 交通事故等を昨年度より減少させる。	生徒の肯定的評価は94.0%で目標値を上回った。交通事故も昨年度と比較して減少しており，成果をあげた。	B				○朝のHRや集会などを通して交通安全や交通マナーについて周知を徹底したことで，交通事故件数の減少という成果も出ているが，自転車の左側通行が徹底できていない現状があるので，次年度は力を入れていきたい。 ○携帯電話やスマートフォンをルールやマナーを意識して使用しているという生徒の割合は高い。しかし，依然としてSNSでのトラブルなどが発生しており，使用に関しては注意喚起を行っていく必要性がある。利用時間を意識している生徒の割合が下がっていたので，トラブルの元にならないように，保護者への協力を呼びかけ，啓発に努めたい。
					2	「携帯電話やスマートフォンは利用時間を意識している」生徒および保護者の肯定的評価80%以上 「携帯電話やスマートフォンはルール・マナーを意識して使用している」生徒および保護者の肯定的評価80%以上	「携帯電話やスマートフォンは利用時間を意識している」生徒の肯定的評価は69.6%，保護者の肯定的評価は55.9%であり，「携帯電話やスマートフォンはルール・マナーを意識して使用している」生徒の肯定的評価は91.8%，保護者の肯定的評価は83.0%であった。利用時間に関して目標値を下回った。					
				活動計画	1	バイクの安全運転実技講習会を開き，車体検査を行う。また，登校指導を毎月行うなど，交通安全教育を徹底する。	毎週の初めに職員朝礼で全職員に呼びかけ，朝のHRで生徒への周知徹底を図った。 バイクの安全運転実技講習会や車体検査を実施し，交通安全教育を徹底した。交通事故件数は昨年度8件から5件と減少しており，成果をあげた。					
					2	個人面談や家庭及び関係機関との連携を行い，情報モラルを身につけさせるとともに，携帯電話やスマートフォンの利用時間やルール・マナーを意識して使用させる。	毎週の初めに職員朝礼で全職員に呼びかけ，朝のHRで生徒への周知徹底を図った。 携帯電話やスマートフォンのルール・マナーに関しては家庭の協力もあり，昨年度より意識が向上している。					
		(4)	保健指導の充実	評価指標	1	「子どもは学校から発信された健康情報などを参考にして，自分の健康や生活に気をつけた生活をしている」保護者の肯定的評価60%以上 「『保健だより』などを通じて，時候や生徒の生活状況に応じた効果的な指導ができている」教職員の肯定的評価90%以上	「子どもは学校から発信された健康情報などを参考にして，自分の健康や生活に気をつけた生活をしている」保護者の肯定的評価67.6% 「『保健だより』などを通じて，時候や生徒の生活状況に応じた効果的な指導ができている」教職員の肯定的評価97.6%	A				○生徒の学校生活をよく観察し，保健だよりと保健指導の内容のさらなる充実に努めたい。 ○緊急時に全員が適切な措置を行えるよう，救急法の講習は必要であるため，教職員全員が参加できる日程で計画予定である。
					2	「緊急時に救急措置(AEDを含む)をすることができる」教職員100%	「緊急時に救急措置(AEDを含む)をすることができる」教職員の肯定的評価100%					
				活動計画	1	時節や生徒の生活状況に応じて保健だよりを定期的・臨時的に発行するなど，効果的な保健指導を行う。	保健だよりは基本的に月に１回発行し，今年度からは教室掲示で生徒がいつでも見えるようにしている。					
					2	教職員に加え部活動生徒への救急法講習会を実施するなど，校内救急体制の充実に努める。教職員対象救急法講習会(年1回実施)	教職員や部活動生徒対象の救急法講習会，１年生対象の熱中症予防対策セミナーを実施し，予防も含めた校内救急体制を確認することができた。					
		(5)	教育相談及び特別支援教育の充実	評価指標	1	「悩みや不安を親身に聞いてくれる先生や友だちがいる」生徒の肯定的評価85%以上 「先生は保護者や子どもの相談に誠実に対応してくれている」保護者肯定的評価85%以上「生徒や保護者の相談に，誠実に対応できている」教職員の肯定的評価90%以上	「悩みや不安を親身に聞いてくれる先生や友だちがいる」生徒の肯定的評価91.8% 「先生は保護者や子どもの相談に誠実に対応してくれている」保護者の肯定的評価88.5% 「自己理解調査や職員研修を生かし，学級や部活動などで生徒の居場所作りに努めることができた」教員の肯定的評価は95.0%であった。生徒，保護者，教員すべての評価において目標を達成することができた。	A				○生徒や保護者の肯定的評価を過信することなく，担任・学年・部活動顧問等で連携しながら生徒の悩みに迅速に対応していきたい。 ○スクールカウンセリングを希望する生徒や保護者は多く，悩みや不安を抱えている生徒の要因や環境整備などの配慮が必要である。 ○子どもと家族の関係が希薄で，悩みや不安の原因が分かるまでに時間を要したり，家庭の協力が得られにくかったりするケースが増えている。担任や学年団だけでなく，関係機関とも連携しながら早期に対応していくことが課題である。
					2	「生徒が安心して過ごせる教室や部活動の環境整備や授業づくりに努め，組織として迅速かつ臨機応変に対応できる」教職員の肯定的評価90%以上	「生徒が安心して過ごせる教室や部活動の環境整備や授業づくりの工夫ができた。」教職員の肯定的評価92.7%で目標を達成することができた。					
				活動計画	1	悩みや不安など，様々な困り感を抱えていながらも言い出せない生徒がいることを常に意識し，生徒が相談しやすい環境づくりと誠実な対応に努める。	人権教育課と連携し,特別支援教育についての職員研修を実施した。配慮を要する生徒が増えてくるなか,合理的配慮について具体的に学ぶことができる機会となった。					
					2	担任をはじめ教科担任や部活動顧問，関係機関とも連携し，生徒が安心して学校生活を送れるよう工夫し，組織として，迅速かつ臨機応変な対応に努める。	不登校や悩みのある生徒について,保護者と連携して,徳島県精神保健福祉センターの思春期外来やスクールカウンセラーの利用をすすめるなど,関係機関とも連携できた。					
		(6)	人権教育の推進	評価指標	1	「人権問題について学んだことを，日常生活に活かそうとしている」生徒の肯定的評価80%以上 「子どもが学校で人権問題について学んだことを，家庭で話し合う機会がある」保護者の肯定的評価40%以上	生徒の肯定的評価は86%で，目標を達成することができた。また，保護者の肯定的評価も43.7%で目標を達成することができた。	A				○生徒が人権問題についての学びを，日々の生活に反映させられるよう，生徒の身近な内容を取り上げたり，家庭との連携をより一層図る等の工夫をしたい。 ○「人権の日だから語る会」参加者数が全ての会全ての学年で増加したわけではないので，どの会でもどの学年でも参加者を増やすために，広報活動に努め，気軽に参加できる雰囲気作りに励みたい。 ○人権学習ホームルーム活動については，さらに多くの教員が指導に関われるように工夫していく。
					2	「人権学習ホームルーム活動は充実している」生徒の肯定的評価85%以上 「すべての教育活動の中で，人権に配慮した指導ができている」教職員の肯定的評価90%以上	感染予防のために話し合い活動は制限されたが，動画を利用するなど教材を工夫した結果，生徒の肯定的評価は88%で目標を達成することができた。教職員の肯定的評価は100%と高い評価となった。					
				活動計画	1	人権問題をより身近なものとして捉え，実践的態度につなげるために，人権委員が主体となり「脇高人権の日」のテーマ設定や資料づくりを行う。また，その日のテーマを家庭でも共有し，広がりある人権教育に結びつける。	「脇高人権の日」のテーマ設定や資料づくりを1・2年生の人権委員が１～2クラスずつで担当した。高校生の視点を取り入れたテーマで，主体的に資料作成に取組む姿勢が見られた。「人権の日だから語る会」への人権委員・人権同好会「虹」の生徒以外の参加者が増加した。					
					2	生徒の実態に合わせてホームルーム活動で扱うテーマを再構成するとともに，各学年で指導案や資料を十分に検討し，生徒の主体的な活動を積極的に取り入れる。また，多くの教員が指導に関われるように工夫する。これらの活動を柱に，すべての教育活動の中で人権に配慮した指導の実現を図る。	全15クラスで副担任の先生がホームルーム活動を行う機会を持つなど，多くの教員が指導に関わることができた。体育館を使用し，密にならないよう配慮することで学年一斉ホームルーム活動を実施できた学年もあった。					
		(7)	感性豊かで，調和のとれた人間性の育成	評価指標	1	「学校行事・修学旅行・文化祭等の学校行事を通して，芸術や文化活動に積極的に取り組んだ」生徒の肯定的評価80%以上	肯定的評価は89.1%であった。	B				○コロナ禍で制限が多い状況でも，生徒たちは工夫して実施している。そのような生徒自身の取り組みが，肯定的評価に繋がったのではないかと考えられる。今後もどのような状況でも生徒に考えさせ工夫させる取り組みを継続して実施していきたい。 ○図書の貸し出し数や入館者は増加したが，特定の生徒に限られる傾向にある。広く多くの生徒が図書館を利用するような仕掛け等の工夫が必要である。
					2	「普段から読書に親しんだり，新聞を読んだりするように心がけている」 生徒の肯定的評価60%以上 図書の貸し出し数・入館者数の増加	「普段から読書に親しんだり，新聞を読んだりするように心がけている」生徒の肯定的評価は55%で，目標には届かなかったが，図書の貸し出し数や入館者数は増加した。					
				活動計画	1	学校行事・修学旅行・文化祭等の活動の中で芸術や文化に触れる機会を設け，芸術・文化について理解を深めるとともに，豊かな情操を養う。	コロナ禍で制限の多い状況であったが，文化祭での積極的参加や文化部への入部等，芸術や文化に触れる機会を生徒たちは自主的に得ようとしていた。					
					2	読書推進週間を設け，図書館だよりの充実や読書の推進を図る。	HR読書会を実施したり，図書館だよりで図書委員のおすすめ本を紹介するなどして，読書推進を図った。					

【備考】「評価」及び「総合評価」の評定の基準　A:十分達成できた　B:概ね達成できた　C:達成できなかった

4	働き方改革に取り組み，教職員のワークライフバランスを推進する。	(1)	業務改善と意識改革	評価指標	1	「業務の効率化や会議の縮減等の業務改善に取り組んでいる」教職員の肯定的評価80%以上。	「業務の効率化や会議の縮減等の業務改善に取り組んでいる」教職員の肯定的評価は67.5%で，昨年度より13ポイント超低下しており，目標を達成することはできなかった。	B	B	先生方が無事健康でいていただけたらと思う。 仕事を自宅に持ち帰るのでは軽減にはならない。 普段でも大変なのに，コロナ禍で配慮事項が増える中，これだけの教育活動をされたのはすばらしい。	○「行事計画書」等をもとに各分掌間で連携して行事の精選や見直しを検討するとともに，各分掌内でも，課員個々が抱えている業務量を勘案して業務分担を見直すなど，業務の平準化に努める。 ○コロナ禍に対応した活動自粛の経験をもとに，週末の部活動等についても計画的に時間短縮に引き続き努める。
					2	時間外勤務時間が，年平均で月４５時間以内。	時間外勤務時間の年平均時間は月２７時間を下回っており，目標を達成することができた。				
				活動計画	1	日常業務の見える化，効率化を図るとともに，会議の精選や会議時間の短縮を推進する。	行事計画書の立案・配布を徹底することで，各分掌が所管する諸行事の見える化を推進するとともに，支障のない範囲で会議資料を事前配付するなどして，会議時間の短縮に努めた。		コロナ禍に加え，来年度に向けて様々な教育改革が進む中，多忙感を払拭することができなかった。		
					2	勤務時間を意識した働き方を推進するとともに，週末の部活動等についても計画的に時間短縮に努める。	コロナ禍の下，部活動や練習試合・合宿等の中止や制限があり，部活動については，昨年度に引き続きやむをえず時間短縮となる状況があった。				

【備考】「評価」及び「総合評価」の評定の基準　A：十分達成できた　B：概ね達成できた　C：達成できなかった